

## 天声人語

失恋して旅に出るという歌謡曲は少くないが、向かう先のイメージはやはり北であろう。

「津軽海峡・冬景色」や「北の宿から」では、寒風に悲しみが重なる。それに対し新婚旅行は南へ行くのが定番だったと白幡洋三郎著『旅行ノススメ』にある▼海外旅行が一般化する前、新婚旅行といえば宮崎という時代があり、1970年代半ばには結婚したカップルの3分の1が訪れた。隣の鹿児島も人気だった。陽光が注ぐ明るい場所が新婚にふさわしいと考えられた▼九州に太陽光発電のパネルが増えたのも、そんな日差しゆえだろう。喜びたいところだが、九州電力からはそんなにいらないと待ったがかかった。涼しくなつて冷房の需要が減ったため、一部の太陽光発電を停止させた▼発電量が多すぎるとバランスが崩れ、停電してしまうのが理由という。電力が余って停電することは初めて聞いたが、複雑な仕組みのだろう。一方で原子力発電を優先する国のあるルールがあり、4基は発電を続いている▼福島の原発事故の反省から、太陽光発電の普及へと旗が振られ始めて7年がたつ。そんな再生可能エネルギーを受け入れるために準備を電力会社はずつとさぼっていたのか。会社を超えて電力を融通できるよう電線を増強する。必要なない原発は止める。対応は待ったなしであろう▼もちろん太陽光発電は南国だけではなく全国に広がっている。北の方には風力発電に適しているところも多い。育ってきた若木を枯らしてはいけない。